

タウントーク あなたの街で 市長と語ろう!



12月15日に行われた清田区タウントーク。敬老パスの改正やごみ処理の有料化など、生活に影響のある話題について、市民の皆さんから積極的に意見が出されました。

タウントークに関するお問い合わせは、区役所（15ページ）の総務企画課か市民の声を聞く課☎211-2042へ。内容は、市長のホームページ<http://www.city.sapporo.jp/city/mayor/>からもご覧いただけます。

敬老パスの見直しについて

▶市長から



もりしかずこ
森下和子さん

バスと地下鉄を乗り継いで都心まで出掛けると交通費が高く、非常に負担が大きいです。ほかの公共事業を抑えてでも今あるバスを維持してほしいと思います。

敬老パス（敬老優待乗車証）は、現行の「制限なしで無料」のままでは、将来制度を維持できなくなります。今回の改正は10年後、20年後もこの制度を続けるためにはどうすべきかを皆さんと検討、議論した結果です。ほかの公共事業を抑えてということですが、例えば「札幌駅前通地下歩行空間」は、今後、数十年にわたって札幌に経済効果をもたらしてくれる必要なものです。



なかむら
中村さん

敬老パスに使用期限は必要ないのでは。全額使い切らないうちに期限がきてしまった場合、その残額を翌年に繰り越すことはできませんか。

新しい敬老パスは1万円から5万円までの5段階の設定があり、利用状況に合わせて選んでいただくものです。使用期限については、次年度への繰り越しが無いという想定でバス会社などの協力を得て計画を立てていますので、ご了承いただきたいと思います。

公共事業と市民負担のこれからの在り方は？

ごみ処理の有料化について

▶市長から



さかいかずこ
坂井和子さん

山の近くに住んでいますが、不法投棄が多いのが気になります。ごみ処理の有料化の話も聞きますが、有料化すれば不法投棄が増えるのではと心配です。また、「生ごみを堆肥に」という声がありますが、庭のない人には無理のある呼び掛けです。ほかの自治体の例にあるように、生ごみを完全分別し、市で「資源」として収集できませんか。

市が現在ごみ処理に割いているお金は約294億円で、今後はこれを少しでも軽減していく必要があります。ご意見のような生ごみの資源収集は、3000人程度の地域で実施例がありますね。札幌でもモデル地区を定め、生ごみを堆肥化する事業を計画していますので、全市で事業を行う際には、ぜひご協力をお願いします。